

① 読書速度の現状 & 5つのグループ 現実を直視する

	おおよその読書速度	読書速度	状態	全体の中での割合 ※1	A4の報告書5Pを読み終わる時間 ※2
Aグループ	約500字/分	0～ 599字/分	遅く苦手	8%	12分00秒
Bグループ	約800字/分	600～ 999字/分	やや遅い	31%	7分30秒
Cグループ	約1200字/分	1000～1399字/分	標準的な速さ	37%	5分00秒
Dグループ	約1800字/分	1400～1999字/分	やや速い	17%	3分20秒
Eグループ	約2200字/分	2000～字/分	特に速い	7%	2分43秒

※1 この講座での読書速度の測定の数値を元にしています

※2 A4の報告書5ページを読むことを想定しての、読み終わる時間です。(6000字=1200字×5ページ)

A4サイズの報告書は1200～1800文字くらいが入っています。文字が詰まった状態で1800字くらい。

実際は図などもありますので、ここでは1ページ=1200字として考えてみます。

[現実を直視する] => [問題点を把握] => [問題点を修正] => [読書速度の向上]

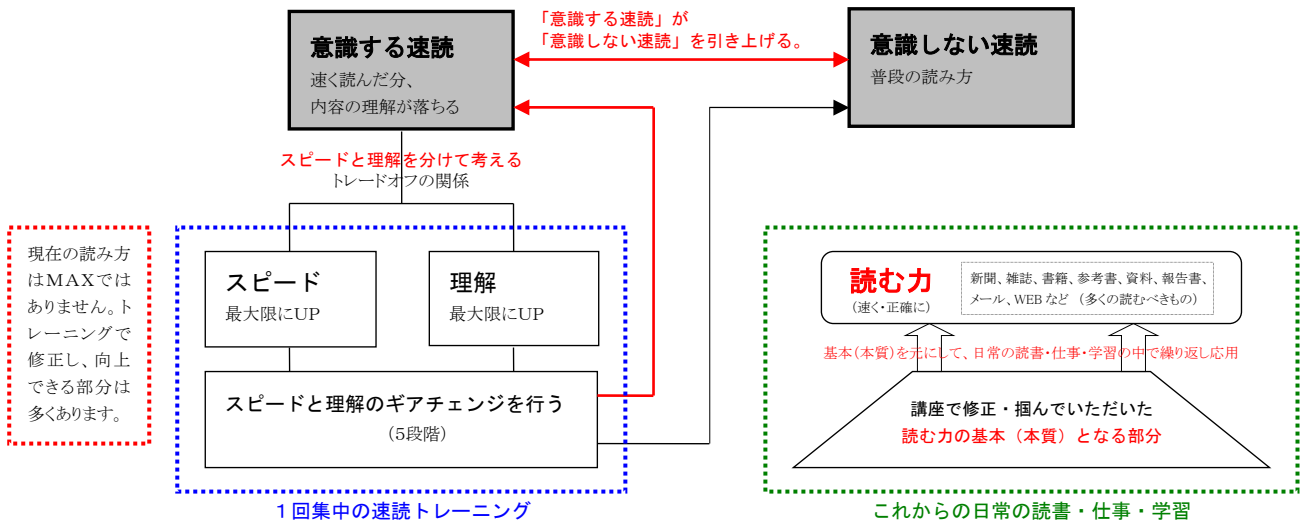
テレビなどのイメージ、誇張された表現での速読を考えると、トレーニングの焦点がズレてしまい、速読の本質から外れてしまう傾向があります。

1つグループが上がるだけでも、大きな成果です。

② 2つの速読 「意識する速読」と「意識しない速読」 整理して「速読」の速さを考える

		意識する速読	意識しない速読
2つの速読の違い		特別な速さの読み方	普段の読み方
※ 国語辞典などで調べると。次のように書かれている。 「普通よりも速い速度で読むこと」		速く読んだ分、内容の理解は落ちる スピードを上げ、自分に必要な情報をピックアップする 適する本、適さない本がある	通常は「速読」とは言わない 適する本、適さない本という概念はない
「スピード」と「理解」の関係 (トレードオフで考える)		トレードオフとしての速読 「スピード」と「理解」トレードオフの関係	トレードオフでない速読 「スピード」と「理解」両方の向上
トレーニングによって向上できる速さ		■■□□□ 約2倍～5倍 (読書量や理解力、本、目的などによる)	■■ 平均約1.8倍(当講座の実績)
速い人・遅い人の一般的な傾向	読書速度の遅い人 読み慣れていない	ほとんど使わない わからないから意味がないと捉える	全てこの読み方
	「私は速読ができる」という人	2段階くらいで読み分ける スピードは不安定	理解が弱く、雑な読み方になりがち
	読書速度が速い人 実力のある速さ	3～5段階くらいで読み分ける ポジティブにこの読み方を捉える	スピードと理解の両方の力がある よりしっかりと理解で読む
速読の本などに書かれている「速読」	作家など、読む力のある人の「速読」	この読み方を「速読」と表現	この読み方を「熟読」「精読」と表現
	速読教室などの本	すべての対象について「速読」と表現(速く読み・内容の理解もできる)、宣伝?	
	※速読教室などの実際の訓練	わからない状態でページをめくる	バランスが崩れ、雑な読み方になりがち
対象となる本の種類など		新聞・実用書・資料などから、自分に必要な情報をピックアップする 物語などをワクワクしながらどんどん先に進む	教科書・参考書・試験問題などを、読み終えたところを再度確認しながら進む 専門書などを、ひとつひとつ確認しながら読み進む
職業・その人の性格など		締め切りの多い仕事、編集者など 限られた時間の中で必要な情報を読み取る 大雑把な性格	専門職、経理などお金を扱った仕事 資格試験などの勉強をしている 細かなところが気になる
長所と短所 (片方の読み方だけになった場合)		雑な読み方になりがち 速く読めるが、理解が弱くなる	硬い読み方になりがち 読書速度が遅くなる

③ 速読トレーニング 1回集中の速読トレーニング & これからの日常の読書・仕事・学習



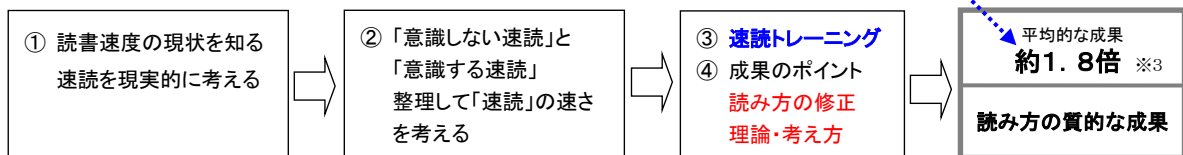
④ 読書速度を向上させるための成果のポイント

A. 読書量	ほとんど本を読まない状態であれば、読書速度は速くなりません。 「速読」は「速く」「読む」と書きます。「読む」という行為があって成り立つものです。
B. 文字を認識する力	読書量にも関係します。活字をしっかりと読む力が必要です。 仕事などでも、何らかのターゲットを注意深く見ることをやっている方は、こうした力があります。
C. 速い・遅いの感覚	読書量にも関係します。速い・遅いのスピードの違いを感じる力が必用です。 例えば、1分間に3ページ進む状態と、6ページ進む状態とは、違うスピードなのですが、この違いがわからないことがあったりします。
D. 理解の力	ひとりひとり理解の力は違います。 スピードを上げて理解できているかどうかは、ひとりひとりの理解の力によって、違います。
E. マイナスの癖がある場合	身体の姿勢や眼の状態など、特別な癖のついてしまっていることがあります。こうした場合、ゼロからというよりも、マイナスからスタートするような状態ですから、まずは癖を取り除くことが必用です。 独学の速読トレーニングや、無理をした読み方をしていった場合、こうしたマイナスの癖がついてしまうことがあります。
F. ポジティブに考える	特に「意識する速読」については、ポジティブに考えることが必要です。
G. 指示通りのトレーニング	スポーツと同じようにトレーニングですので、講座の指示通りのトレーニングが行われない場合、成果には繋がりません。速読への解釈などが違う場合、こうしたことがあります。他の速読メソッドとは、方法論、アプローチの仕方が違います。焦点を合わせていただくことが重要です。 まっさらの状態、楽しんで受講していただくことが、読書速度向上への近道です。
H. その他	モチベーション、必要性など。

これらのポイントは、読書速度向上の成果に関係してきます。しかし弱い部分があったとしても、重要だと気づくことで、これからの日常の読書において、一步一步向上していくことに繋がります。読書量の少なかった方は、この講座で掴んでいただいたものを土台として、これからの日常の読書・仕事・学習の中で、力をより向上させていくこととなります。

★ 読書速度の向上とは？

①「読書速度の現状」を見ていただくわかりますが、約1.8倍は意味のある大きな数値です



※3 この読書速度の向上について納得できる測定方法かどうかについて、確認させていただいている数値です。

読書速度は、
言葉の定義も含めて総合的に考える必要があるものです。
ある部分だけを強調しても誤解を招いてしまうだけです。

読書速度の向上について、ウェブサイトにてご確認ください。
「受講生1000人データ 読書速度」「1000人以上の受講生の声」など。

読書速度はひとつの数値です。これからの読書を前向きに行っていくための土台となる数値となるものです。

